

## 「Bent」

写真学科 高島圭史 Keiji Takashima



今回は 1851 年に発明された湿板写真という古典技法を使い、立体的な写真作品を制作した。

湿板写真はその名の通り、濡れている板で濡れている間に撮影を完了させなければならない。

今回は 19 世紀に流行した、黒塗りの金属板を使う「ティンタイプ」で制作し、曲げる加工を施した。

ティンタイプはプリントと違い、複製を作ることができない。したがって、その時撮影された、その金属板上の写真、ただ 1 点のみが世界に存在することになる。

ティンタイプを見せると皆一様に、古い写真のようだという。今回、展示している作品は身の回りにある植物であり、全て人間の手がかえられているものを撮影した。それゆえ、既視感や親近感を感じることと思う。しかし、先に述べたように時代が少しずれたように見えないだろうか。また、曲げることにより視覚的なズレも加わることと思う。そのズレの面白さを本作品で感じていただけたらと願う。



1981 年生。愛知大学経済学部経済学科卒業。東京工芸大学芸術学部写真学科卒業。  
写真制作を専攻分野とし、湿板写真などの古典写真技法による制作活動を行っている。  
美術館や大学などでワークショップ（暗室技術指導、写真古典技法、映像系）やスクールプログラムなど写真教育にも多数関わっている。  
「古典写真講座」講師 郡山市立美術館 2013 年  
「Personal Documents Project」企画運営 韓国 ソウル 2016 年 など多数。

